

分科会・エクスカーションでテーマを深堀り

全国商工会議所観光振興大会2018 in会津若松

地方都市の観光創造に向け活発に議論

5分野のテーマで分科会を実施



柔軟な思考と発想の転換で歴史資源の活用を
第3分科会

「全国商工会議所観光振興大会2018 in会津若松」は2日目の11月6日、會津風雅堂等市内三会場で5分科会を開催し、広域連携やインバウンド、歴史資源活用等で意見を交わしました。またこの日から市内外を訪れるエクスカーション（視察研修）も行われ、産や仏教文化を伝える各地を訪ねました。

分科会では全体会議における基調講演、パネルディスカッションを受け、現在の観光が持つ課題や可能性について深く掘り下げることを目指して開催しました。「広域連携」「歴史資源」「災害と観光」「ICT」の5分野に分かれ、地方都市が解決、取り組むべき課題を掲げ、各界の識者や実践者が意見を交換しました。

分科会ごとの出演者や討議要旨は次のとおりです。

第1分科会 「広域連携が生む新しい観光の価値」

～競争から協働によって個の魅力を高める手法とは。各地会議所の先進事例等をもとに広域連携の在り方を考えます。

- コーディネーター**
中根 裕 氏 (株) JTB総合研究所 主席研究員
- パネリスト**
竹村 隆 氏 函館商工会議所常議員 観光・飲食・サービス部長
岡本 堅吾 氏 北九州商工会議所常議員 観光サービス部長
竹田 秀 氏 会津若松商工会議所副会頭

第2分科会 「地方都市のインバウンド、大都市のインバウンド」

～今後の観光振興のカギを握るインバウンド。経済基盤が弱い地方都市が目指すべき方向とは。大都市と補完し合う連携策も探ります。

- コーディネーター**
中村 好明 氏 (株) ジャパンインバウンドソリューションズ 代表取締役社長
- パネリスト**
阿部 憲子 氏 南三陸ホテル観光女将
伊藤 秀雄 氏 (有) 伊豆沼津農産代表取締役
大関 松男 氏 長野県・清風荘専務

第3分科会 「歴史資源を生かした観光地づくり」

～歴史ブームで注目される歴史資源。より良い観光資源にブラッシュアップするための手法を学びます。戊辰150周年を迎える会津だけに必聴です。

- コーディネーター**
赤坂 憲雄 氏 民俗学者、福島県立博物館館長
- パネリスト**
松平 保久 氏 会津松平家14代
柳澤 秀夫 氏 会津会会長
紺野美沙子 氏 俳優

第4分科会 「災害と観光 風評とその脱却」

～東日本大震災は本県の観光に大きな傷跡を残しました。特に風評との戦いは現在も続いています。これからの自然災害に備えて「福島県の今」をご覧ください。

- コーディネーター**
高松 正人 氏 (株) JTB総合研究所 上級研究理事 観光危機管理研究室長
- パネリスト**
関谷 直也 氏 東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター准教授
坂本 征夫 氏 常磐興産(株)顧問
横田 純子 氏 NPO法人素材広場理事長

第5分科会 「ICTが開く観光の未来」

～ビッグデータ、SNS、急激なICT技術の進展は、観光産業とも無縁ではありません。その最前線の取組と活用について考えます。

- コーディネーター**
中村彰二朗 氏 アクセンチュア(株)福島イノベーションセンター長
- パネリスト**
藤本 裕之 氏 (株) ジェイアール東日本企画執行役員 ソーシャルビジネス開発局長
中川 敬文 氏 UDS(株)代表取締役社長
新城猪之吉 氏 (一財) 会津若松観光ビューロー理事長

紺野氏は「会津の『什の掟』をもっと多方面で活用し、印象づけることも必要」と述べ、さらには「地元の人々が嫌いだら観光地にならない。好きな場所をどんどんアピールすべき」と呼び掛けました。松平氏は長州(山口県)の参加者がいることに触れ、「歴史観を固持せず、大切な部分を失わない範囲で時代にフィットする発想転換が必要」と強調。柳澤氏も「固定観念を打ち破って、柔軟に考えることが歴史資源を生かす第一歩」と語り、柔らかな発想こそ古い価値や資源を生かすために必要と訴えました。

赤坂氏は「一つの歴史観の押し付けはやめないとならない」という認識を持ち始めているとし、「ミュージアム(博物館)として観光地としての会津若松をどう豊かにデザインしていくかのヒントをいただいた」と語りました。

第4分科会には「災害と観光」をテーマに掲げ、東日本大震災と原発事故を経験した本県の姿から学んでいただくことを目的として企画しました。

坂本氏は「復旧段階で次の災害に備えた強靱な地域づくりも大切」と更なる備えへの重要性も指摘しました。

高松氏は「復興段階で次の災害に備えた強靱な地域づくりも大切」と更なる備えへの重要性も指摘しました。

第5分科会には「ICT(情報通信技術)と句の話題で開催。観光とICTの結びつきを軸に意見を交換しました。

中川氏は現在の観光がICTを活用した「事業」としては不十分と現状を報告。藤本氏は「JRとして同社の「SEM」の活用策等を提案しました。新城氏は当時観光の課題として住民を巻き込んでいない点を指摘しました。中村氏が「ベースは教育。そしてICTでどう世界で表現するかがテーマ」と述べました。話題は財政へ及び、入湯税やふるさと納税についてもその有効活用について意見交換

第3分科会には「歴史資源を生かした観光地づくり」で、戊辰150年の会津若松ならではの分科会となりました。

紺野氏は「会津の『什の掟』をもっと多方面で活用し、印象づけることも必要」と述べ、さらには「地元の人々が嫌いだら観光地にならない。好きな場所をどんどんアピールすべき」と呼び掛けました。松平氏は長州(山口県)の参加者がいることに触れ、「歴史観を固持せず、大切な部分を失わない範囲で時代にフィットする発想転換が必要」と強調。柳澤氏も「固定観念を打ち破って、柔軟に考えることが歴史資源を生かす第一歩」と語り、柔らかな発想こそ古い価値や資源を生かすために必要と訴えました。

第4分科会には「災害と観光」をテーマに掲げ、東日本大震災と原発事故を経験した本県の姿から学んでいただくことを目的として企画しました。

坂本氏は「復旧段階で次の災害に備えた強靱な地域づくりも大切」と更なる備えへの重要性も指摘しました。

高松氏は「復興段階で次の災害に備えた強靱な地域づくりも大切」と更なる備えへの重要性も指摘しました。

第5分科会には「ICT(情報通信技術)と句の話題で開催。観光とICTの結びつきを軸に意見を交換しました。

中川氏は現在の観光がICTを活用した「事業」としては不十分と現状を報告。藤本氏は「JRとして同社の「SEM」の活用策等を提案しました。新城氏は当時観光の課題として住民を巻き込んでいない点を指摘しました。中村氏が「ベースは教育。そしてICTでどう世界で表現するかがテーマ」と述べました。話題は財政へ及び、入湯税やふるさと納税についてもその有効活用について意見交換

個性あふれる連携を期待

テーマ「広域連携が生む新しい観光の価値」



第1分科会には「連携」という切り口から各地商工会議所の取り組み内容や成功の秘訣を探りました。

竹村氏(函館)は津軽海峡を挟んだ、青森県との観光連携やビジネスマッチング支援について報告。岡本氏(北九州)は関門海峡で隣り合う山口県下関市との事業実施において「一体感」というのがひとつのコンセプト」と紹介されました。

竹田氏(会津若松)は戊辰戦争に代表される「ゆかりの地CICネットワーク」事業の取組、そこから生まれた民間の連携へつながった事例も発表されました。

コーディネーターの中根氏は「この指とまれ方式で全国に発信し、新たな連携を構築してほしい」と個性あふれる連携と商工会議所への期待を語りました。

外国人のニーズ把握と地域の一体化が必要

テーマ「地方都市のインバウンド・大都市のインバウンド」

第2分科会には仲長者しい「インバウンド(訪日外国人)対応」がテーマとなりました。

阿部氏は「被災で生まれた地域の連携をそのまま受け入れ体制づくりに活用している」と報告、逆境を逆手に取った取組を示しました。

伊藤氏は農業人口が多い地域性を活かし、農業体験や農泊を中心とした現況を説明。行政と協議所、観光協会が受入れ体制を立ち上げています。

大関氏は地元の湯田中温泉の状況を報告し、「(外国語を)話せなくてもコミュニケーションはできる」と述べるとともにリピーター

中村氏は「受入れは外国人が何を求めているかを考え、地域が一体になった体制が必要」と強調し、「地域の理念をお金に結び付けていくことが大事」と結びました。



個性ある受け入れ手法を発表

歴史や先端産業など7つのコースでフィールドワーク



エクスカーション実施

- 《1泊2日コース》
- A 日本遺産を巡る**
～東北地方で最も早く仏教文化が開花した会津を紹介～
会津若松を訪ねる
徳一ら僧侶が活躍した仏都会津。名刹の数々を紹介。会津若松三観音・福満虚空蔵尊願寺・新宮野神社(長庚)等
 - B 会津五街道をめぐる**
～会津藩祖・保科正之公開削の五街道。当所街道観光からご紹介～
下野街道(会津西街道)
会津から江戸への最短経路。街道の面影をたどり、戊辰の激戦地・白河へ。大内宿、白河関跡、小峰城、南湖公園等
 - C 米沢街道**
伊達政宗や上杉景勝ら名だたる大名が通った道。裏巻橋の景色とともに。裏巻橋、五色池、楡原歴史館、米沢市・上杉神社等
 - D 二本松街道**
歴代藩主の参拜の道。藩祖祭祀の神社を経て、もう一つの戊辰悲劇の地へ。飯盛山、慧日寺、亀ヶ城、土津神社、鶴ヶ城(南人形)等



▼国指定史跡 慧日寺跡を訪問



▲米沢・上杉城史苑



▲七日町界隈を散策

加者からは「これほどの仏」

これまでも当所がモニターツアー等で実施してきた産業観光や街道観光を踏まえ、物語やテーマ性を盛り込みました。それぞれのコースは【別表】のとおりです。

このうち会津の仏教文化に触れる「仏都会津を訪ねる」コースは、28年度に日本遺産に認定された「会津の三十三観音めぐり」を素材とし、立木観音や中田観音、鳥追観音の「こころり三観音」等を訪問。当地の生活に今も伝わる信仰の姿を感じていただきました。参加者からは「これほどの仏」

この雨に見舞われた時間帯もありましたが、初めての訪れでしたが、良い所です。春にまた来たい」との、リピーター宣言も頂戴しました。

- 《日帰りコース》
- G 戊辰150年 縁(えにし) ツアー**
時代のうねりに抵抗し、義を貫いた会津。歴史を体感するツアー。鶴ヶ城、松平家廟所、飯盛山等
 - H 商店街再生・まちなか観光ツアー**
シャッター通りが大正浪漫の街並みに。七日町通り(絵ろうそく体験・末廣酒造・満田屋・福西本店等)
 - I 日本遺産「会津の三十三観音めぐり」**
こころり三観音など会津の仏教文化を見て、聞いて、感じるツアー。中田観音、立木観音、鳥追観音
 - J 日本遺産「未来を拓いた一本の水路」**
明治の大プロジェクト・安積疎水と開拓。産業観光コース。猪苗代第二発電所、十六橋、郡山市開成館等
 - K 会津ICT・先端産業見学ツアー**
ICT分野で日本の先端を走る会津大学や企業集積を目指す施設を見学。ICTオフィス、会津大学等